

トンガ王国における乳幼児への歯科保健アプローチ

○鈴木千鶴^{1, 2)}, 飯田好美^{1, 2)}, 大塚史織^{1, 2)}, 河村サユリ^{1, 2)}, 河村康二^{1, 2)}, 竹内麗理^{2, 3)}, 遠藤眞美^{2, 4)}, 田口千恵子^{2, 5)}, 小林清吾^{2, 5)}

¹⁾カワムラ歯科医院 ²⁾南太平洋医療隊 ³⁾日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座

⁴⁾九州歯科大学生体機能制御学講座 摂食機能リハビリテーション学分野

⁵⁾日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座

【緒言】南太平洋医療隊は1998年よりトンガ王国（以下トンガ）で学校歯科保健活動を行ってきた。現在では全公立小学校で週1回の歯科保健指導とフッ化物洗口がトンガ人歯科スタッフにより実施されており、永久歯う蝕は減少している。他方、乳歯は低年齢でう蝕罹患するが、早期に予防や治療されることは殆ど無いのが現状である。2010年よりJICA“草の根技術協力フォローアップ事業”としてトンガ人歯科スタッフの能力向上と自立強化のため、歯科保健マニュアル作成と実地訓練を開始した。この一活動として乳幼児への歯科保健活動と乳歯う蝕管理を試行し有用性を評価した。

【対象および方法】2010年8月、町村毎に戸別訪問する母子保健看護師や保健センター長の呼びかけで、トンガタブ（本島）とハーパイ諸島（離島）の保健センターや集会場（ホール）を訪れた0～5才乳幼児および保護者へ歯科保健指導、乳幼児への歯科検診、フッ化物（フルオールゼリー[®]）歯面塗布（以下F塗布）、軽度乳歯う蝕へ進行抑制剤（サフォライド[®]）塗布（以下S塗布）を実施した。歯科保健指導とF塗布は3名のトンガ人歯科スタッフが行い、歯科検診とS塗布は日本人歯科医師と歯科衛生士各1名で実施した。

【結果および考察】活動は13日間、40数時間に渡り実施し両地で、7保健センター、8ホール、1歯科室を巡回、来所者は700名（内3名は無歯乳児）であった。表1で示すごとく、検診およびF塗布は無歯乳児を除く697名に、軽度乳歯う蝕歯をもつ437名にS塗布を実施した。重度う蝕乳歯を有する幼児の保護者には生活習慣の改善を促すと共に、治療勧告と治療予約をトンガ人歯科スタッフが口頭で行った。年齢別に受診乳幼児を表2に、う蝕罹患率を表3に示した。0歳児にはう蝕が見られないものの、1歳児では30%、2歳児では52%のう蝕罹患がみられた。早期のう蝕予防が必須であり、地域での乳幼児を対象とした歯科保健活動は今回が初めてであったが、参加したトンガ人歯科スタッフに乳歯う蝕に対するアプローチを示せた。日本では日常的に使用するサフォライド[®]だがトンガ人にとっては目新しい薬剤であったため、短期間に習得出来るようビジュアルに訴えるマニュアルを作成、正しい使用法を伝達した。トンガでは9名の歯科医師と20名の歯科セラピストが総人口10万人の治療を担うが人手不足は慢性的であり、本活動は、機器、材料・薬剤不足の途上国において、乳歯う蝕予防法として効率的かつ効果を期待できると考える。